

「二」次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

「探究」とはなんでしょうか。それを考えるには、反対語を頭に思い浮かべるのが一番。探究の反対語は「暗記」です。変化し続ける社会<sup>a</sup>ウセイの中において、探究と暗記という二つの行為が反対の意味を持つようになってきたのです。

なぜ、探究と暗記が反対の意味を持つようになったのかと言えば、第四次産業革命が進行しつつあり、へ1へ人工知能（AI）がタ<sup>b</sup>イトウし、これまで人間がやってきた仕事を受け持つようになったからです。AIは「暗記」が得意中の得意。世界一、暗記力がある人間よりも、AIのほうがたくさん正確に暗記できます。

でも、いまのAIには「」（言い換えると、意識や心）がありません。だからAIは探究が苦手なのです。探究とは、自分で考え、深く追究することを意味しますが、へ2へ自我を持たないAIは、命令された計算をやっているに過ぎないのです。

これまで、日本に限らず、世界中で、学校のテストや受験において、暗記力が試されることが多かったように思います。しかし、これまでのような勉強法だと、社会に出てからAIに仕事を奪われてしまうという考えのもと、探究学習を取り入れる国が増えてきています。

この流れは誰にも止めることができません。それはビジネスの世界において、人間<sup>①</sup>よりもAIがやったほうがコストが下がる、という仕組みがあり、コストを下げ続けないと企業が競争に負けてしまうからです。

<sup>②</sup>私には12歳になる娘がいますが、ここ10年ほど、AI技術の最前線取材しながら、どうやったら娘が社会に出ても食<sup>A</sup>いづばぐれないのかを必死に考えてきました。

<sup>③</sup>私の結論は単純でした。AIと同じドビ<sup>c</sup>ュウで戦おうとするからAIに仕事をウバ<sup>d</sup>われてしまうのだ。それならAIが苦手な仕事をすればいいではないか。つまり、暗記型の仕事ではなく、探究型の仕事に就けばいいだけの話ではないのか。そのためには学校にいるときから探究型の発想法や行動に慣れる必要がある。

<sup>④</sup>でも、これまでずっと暗記型の授業を続けてきた先生や生徒のみなさんに、「はい、今日から探究型の授業をしましょう」と言っても、すぐには切り替えられませんよね。

私はここ7年ほど、探究型の授業を実践してきました。自分でフリースクールを設立し、現場で試<sup>B</sup>行<sup>B</sup>錯<sup>B</sup>誤<sup>B</sup>を重ねてきたのです。そこで、ここで探究型の授業について、私なりのコツを書いてみたいと思います。と言つても、へ3へ難しいことはありません。

まず第一に、暗記をゼロにして、何も覚えなくてもいい、ということではありません。探究学習をする場合も、基礎となる知識は必要です。基本的な漢字が書けたり、百人一首を覚えたりして、悪いわけがありません。最低限の暗記はしてもいいのです。

次に、誰しも子供の頃は、いっぱい遊んだはずですが、その遊び心を思い出してみて、ということ。探究心は遊び心に通ずるところがあります。私はたくさんの取材を通じて知りましたが、探究心旺盛なノーベル賞受賞者の多くは、子供の心のまま大人になり、学問<sup>⑤</sup>の世界で真剣に遊び続けている人々なのです。

ええと、趣味で好きなことをしているときは、強制されなくても、自然と楽しく学びますよね？へ4へ、試験前に急に好きな小説を読みたくなったり、ゲームをやりたいなくなったりしたことはありませんか？それこそが探究なのです。<sup>⑥</sup>

これまでの窮屈な授業を少しずつ変えていって、みんなが楽しく遊んでいるようなフン<sup>e</sup>イキになったときこそ、みなさんは探究型の授業に移行できたのだと私は思います。

私の授業では、生徒を5／8名のグループに分けて、論理パズルの解き方を発表してもらったり、ルービックキューブで競ったりしますが、哲学や科学の文章の意味をみんな「解説」することもあります。

みんなが楽しく笑いながら文章の意味を考え、自由に意見を述べ合い、面白い創作を発表できたら、それは立派な探究授業だと言えるでしょう。

これまで勉強が苦しかったのは、意味のない暗記が多かったせい。でもこれからは、遊びの延長線<sup>⑦</sup>にある探究で勉強も楽しくなる。そう考えれば、AIのタイトウは、決して恐ろしいことではなく、へ5へ歓迎すべき変化だと思うのです。

（竹内薫「探究学習の根っこには『遊び』がある」より）

問一 〓 a ｿ e のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 へ ー 1 ｿ 5 に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア そんなに                      イ とりわけ                      ウ あるいは                      エ むしろ                      オ そもそも

問三  に入る語を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 記憶                      イ 自我                      ウ 夢                      エ 根性                      オ 成長

問四 ー A「食いっぱぐれない」、B「試行錯誤」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

|            |               |        |                        |
|------------|---------------|--------|------------------------|
| A 食いっぱぐれない | ア おくれをとらない    | B 試行錯誤 | ア 試験を繰り返しながら力をつける      |
|            | イ みんなと食事ができない |        | イ 失敗を繰り返しながら成功をさぐる     |
|            | ウ 食べる機会を逃さない  |        | ウ 手を変え品を変えて失敗しつづける     |
|            | エ やせ細らない      |        | エ 注意深く用心して失敗を排除し続ける    |
|            | オ 生活にこまらない    |        | オ 試し行うときに成功を失敗だと取り間違える |

問五 A I の出現と教育の変化について次のようにまとめた。〈i〉〈ii〉に文中から、適語を入れなさい。

大量の〈i〉が扱えるA I の特徴が、〈ii〉を高めることに力を注いだ教育を根本から変える必要が出てきた。

問六 ー ①とあるが、これはなぜか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア A I 機器の方がたくさん働けるから  
イ 人間は不平不満を言うものだから  
ウ 優秀な人間はさほど多くはないから  
エ A I には無数の手足が存在するから

問七 ー ②を別表現に改めてみた。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 娘がA I にはなじまないという不安  
イ A I があらわれたことによる社会不安  
ウ A I によるビジネス再編についての不安  
エ 娘の記憶力の乏しさについての不安

問八 ー ③に含まれる筆者の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が編み出した解答についての自慢  
イ 自分の思いついた解答の浅さについての反省  
ウ 自分の専門外についての見識の浅さについての後悔  
エ 不安のおよばない点を見つけたことについての安心

問九 ― ④とあるが、どうして切り替えることができないのか、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 統一的な規格を作ろうとしていないから
- イ 教育や社会についての見通しができないから
- ウ 変化をさせようとする気持ちを作らねばならないから
- エ 今までにそのような学習の経験がないから

問十 ― ⑤「学問の世界で真剣に遊び続けている」という性質を書き表した五文字を本文から抜き出しなさい。

問十一 ― ⑥とあるが、筆者の言おうとすることを具体的に書き改めた。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の気の向くままに思考できる場と状況を作り上げることが大切
- イ 子どものままの心で大人になるために遊びを軸にした教育環境が大切
- ウ 窮屈さを排除しながら積極的に自由な思考をする状況をもたらすことが大切
- エ 暗記の量をできる限り少なくすることで生まれる自由時間を前に出すことが大切

問十二 ― ⑦とあるが、なぜ「探究が遊びの延長線上にある」ことになるのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 探究をいくら磨いたところで、従前の学習に目新しさを入れ込むことしかできないことが明確なため
- イ 飽くなき学習を続けさせる原動力は、遊びを学習に取り込むような目新しさが必要であるため
- ウ 制限のない創作性を喚起させるためには、自由な思考や意見交換が必要であり、遊びの中で磨かれることがあるため
- エ 遊びの中には従前の厳格な学習が持つてはいない性質があり、いまままでにないその性質を遊びから組み入れるため

【二】次の枕草子の章段を読んで、あとの問いに答えなさい。

大藏卿ばかり、耳とき人<sup>A</sup>はなし。まことに、蚊のまつ毛の落つるをも、聞きつけたまひつべうこそありしか。<sup>①</sup>  
職の御曹司の西面に住みしころ、大殿の新中将、宿直にて、ものなどいひしに、そばにある人の、  
「この中将に、扇の絵のこと言へ」  
と、ささめけば、<sup>B</sup>

「いま、かの君の立ちたまひなむにを」  
と、いとみそかに言ひ入るるを、その人だにえ聞きつけで、<sup>②</sup>  
「何とか。何とか」  
と、耳を傾け来るに、遠くゐて、<sup>④</sup>  
「憎し。さのたまはば、今日は立たじ」<sup>⑥</sup>  
とのたまひしこそ、いかでききつけたまふらむと、あさましかりしか。<sup>⑦</sup>

問一 ― A「耳とき」、B「ささめけば」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| A 耳とき      |            | B ささめけば    |            |
| ア 耳を疑う     | イ 耳が遠い     | ア ざわつかせると  | イ そつと知らせると |
| ウ 耳がよく聞こえる | エ 耳を近づけて聞く | ウ ざつと理解すると | エ 差し止めると   |

問二 ― ①については「…ころ」と時期を説明しているが、住んでいたのは誰か、人名を漢字で答えなさい。

問三 ― ②③④⑤について、②④⑤は誰の動作であるか、また③は誰のことなのか、次から選び記号で答えなさい。

ア 大蔵卿                      イ 大殿の新中将                      ウ そばにある人                      エ 筆者

問四 ― ⑥は「そのようにおっしゃるなら」という意味であるが「そのようにおっしゃった」というのはどの言葉を指して言っているのか。  
該当の言葉のはじめの五字で答えなさい。(句読点は字数に含む)

問五 ― ⑦のように「今日はここから立ち上がるまい」と意思をかためるようになった理由を、「から」に続く形で解答用紙に答えなさい。  
ただし、説明には「大蔵卿」「扇」「退出」の三語をつかうこと。

【三】 次のそれぞれの四字熟語の（ ）に入る漢字を答えなさい。

A 悪（ ）苦闘                      B 異（ ）同音                      C 一（ ）始終  
D 完（ ）無欠                      E 喜（ ）哀楽

【四】 次の作品を記号を使って成立順に並べて、関係の深い同時代の人物名を後から選び、記号で答えなさい。

A 奥の細道                      B 平家物語                      C 古今和歌集                      D 源氏物語  
① 太安万侶                      ② 那須与一                      ③ 紀貫之                      ④ 藤原道長                      ⑤ 松尾芭蕉

【五】 次の――①②④の品詞を後から選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度使っても良い)

「こいさん、頼むわ。――」

鏡の中で、廊下からうしろへ這入<sup>はい</sup>って来た妙子を見ると、自分で襟を塗りかけていた刷毛<sup>はけ</sup>を渡<sup>わた</sup>して、其方<sup>はた</sup>は見<sup>み</sup>ずに、眼の前に映っている長襦袢<sup>ながじゅばん</sup>姿の、抜き衣紋<sup>えもん</sup>の顔を他人の顔のように見据えながら、

「雪子ちゃん下で何してる」  
と、幸子はきいた。

「悦ちゃんのピアノ見たげてるらしい」

――なるほど、階下で練習曲の音がしているのは、雪子が先に身支度<sup>みじだ</sup>をしてしまったところで悦子に掴<sup>つか</sup>まって、稽古<sup>けいこ</sup>を見てやっているのであろう。  
悦子は母が外出する時でも雪子さえ家にいてくれれば大人しく留守番をする児であるのに、今日は母と雪子と妙子と、三人が揃って出かけると云うので少し機嫌が悪いのであるが、二時に始まる演奏会が済みさえしたら雪子だけ一と足先に、夕飯までには帰って来ると云うことでどうやら納得はしているのであった。

(谷崎潤一郎『細雪』冒頭部)

ア 名詞                      イ 動詞                      ウ 形容詞                      エ 形容動詞                      オ 連体詞  
カ 副詞                      キ 助詞                      ク 助動詞

小計8点

小計8点

小計10点

小計21点

小計53点

2点×4 五

2点×4 四

2点×5 三

4点

3点

2点×4

2点

2点×2 三

3点×2

3点

3点×4

2点×2

2点

2点×5

2点×5 二

|   |
|---|
| ① |
| イ |
| ② |
| ク |
| ③ |
| カ |
| ④ |
| ウ |

|   |    |
|---|----|
| C | 作品 |
| ③ | 人物 |
| D | 作品 |
| ④ | 人物 |
| B | 作品 |
| ② | 人物 |
| A | 作品 |
| ⑤ | 人物 |

古い時代 ↓ 新しい時代

|   |
|---|
| A |
| 戦 |
| B |
| 口 |
| C |
| 部 |
| D |
| 全 |
| E |
| 怒 |

|                     |    |
|---------------------|----|
| 扇の絵についての話を大蔵卿に聞かせまい |    |
| として大蔵卿の退出を待とうとした    | から |

|     |
|-----|
| いま、 |
| かの  |

|   |
|---|
| ② |
| イ |
| ③ |
| ウ |
| ④ |
| ウ |
| ⑤ |
| ア |

|      |
|------|
| 清少納言 |
|------|

|   |
|---|
| A |
| ウ |
| B |
| イ |

|   |
|---|
| ウ |
| ウ |

|       |
|-------|
| 探究心旺盛 |
|-------|

|   |
|---|
| ア |
| イ |

|   |
|---|
| A |
| オ |
| B |
| イ |

|   |
|---|
| イ |
|---|

|   |
|---|
| 1 |
| イ |
| 2 |
| オ |
| 3 |
| ア |
| 4 |
| ウ |
| 5 |
| エ |

|     |       |
|-----|-------|
| a   | ジョウセイ |
| 情勢  |       |
| b   | タイトウ  |
| 台頭  |       |
| c   | ドビョウ  |
| 土俵  |       |
| d   | ウバ    |
| 奪   | われ    |
| e   | フンイキ  |
| 雰囲気 |       |

国語解答